

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201146		
法人名	社会福祉法人 鶴亀会		
事業所名	グループホーム龍ヶ岳		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町大道158番地		
自己評価作成日	令和元年10月15日	評価結果市町村受理日	令和元年12月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方の、その人らしい尊厳なる姿を大切にしています。くつろげる場所の確保と、混乱せずに済む心遣いをしています。また1ヶ月にお一人ずつ、生活改善月間を設定し、スタッフ全員で取り組み生活向上に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和元年11月12日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して15年という経年、入居者の入れ替わりもあるが最高齢98歳という中で、「その人らしく」の理念の実践に真摯に取り組むホームである。入居者の声に耳を傾け、個々の特性や機能・能力を見極め、クラブ活動としての書道や絵画クラブ等残存能力を引き出したことが自信回復や家族の新しい発見として生かされるとともに、共有空間の彩に繋げている。食を職員手作りに変更したり、“アロハ海鮮会”と称する食事会等改善・工夫への意欲も見られ、気づきや観察結果の情報ノートが生かされた希望による故郷訪問等個々に注視したケアに努めている。母体の中にあるというスケールメリットを生かしながら、ケア向上に取り組みされており、今後も認知症ケア推進に大いに期待したいホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して、具体的なケアについて意見の統一を図っている	“その人らしく”を理念として、入居者個々の生活歴等を情報ノートによる共有化として、入居者の生活の中に反映させている。書道や絵画クラブなどの継続や入居者と職員との1対1のドライブ等が潜在能力を引き出したケアとともに自信回復及び家族の新しい発見へとつなげる等“らしく”に注視した職員の観察力が生かされている。	入居者の入れ替わりや職員体制に大きな変動も無く、穏やかな日常を見ることが出来るホームである。地域密着型ホームとしての意義や認知症ケア啓発としての役割等情報発信に大いに期待したい。また、職員のケア規範となるような目標なども全員で検討されることも望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りには参加していないが、獅子舞や子ども神輿の訪問をお願いし、来ていただいている。	隣接の福祉施設と一体となって行事(夏祭りや法話等)を通じた住民との交流や子ども会の神輿の来訪、図書館からの読み聞かせ等が行われている。ホームが地域の一員とした活動は少ないが、ボランティア活動の場所としての提供により住民との交流促進の一環としている。	立地上の制約は否めないが、入居者が地域の人々と接することは心身の活性化に生かされている。計画した行事のみならず、今後も入居者が地域の中で暮らし続ける基盤作りやグループホームとして地域とどう関わるか全員で検討されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の成果を地域の方に伝える場は、今のところ運営推進委員会の場以外にない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配している。	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は食事提供方法の変更により意見交換や夜間帯の様子等問題を提起しながら話し合いを行い、運営推進会議の中に防災訓練を組み入れる等創意工夫も見られる。また、身体拘束適正化として内容なども説明している。	ホームも貢献できる場としての認識や、閉鎖的なホームにならないことへの思いが活発な意見交換等に反映している。今後も、運営推進会議からの意見等を更にサービス向上に活かされることと期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会以外では、市の担当者と連絡を取り合うことは少ない。制度解釈に関する質問を受けてもらう程度。	市担当者の運営推進会議参加時にホームの現状等情報を発信し、この会議の内容(議事録)を市に提出している。制度上の問題等を尋ねることもあるが、行政とは必要最低限の関わりである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が屋外に出たい様子を察知したら、押し止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒に行く等、安全面に配慮の上自由な暮らしを支えるようにしている。	もともと“拘束はしないことが当然”として指針も作成し、法人全体での研修により認識を深めるとともにホーム内でも勉強会を開催している。外出傾向等サインを見逃さず早めにかかわりを持つこと、所在確認の徹底を全員が共通認識とし、外出傾向、出たいとの思いにはドライブや海を眺めたり、お墓参り等を支援している。家族の同意のもと部屋には人感センサー(転倒予防)や入居者が過剰にならない様にと工夫した呼び鈴を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを実施し、高齢者虐待防止法の遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、事業所では研修していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ出来るだけ丁寧に説明している。重度化や看取りへの対応、利用料金等については特に詳しく説明し、同意を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。 また必要なら家族宅へ訪問し、要望を聞くようにしている。	職員は日々一人ひとりへの関わりの中での会話や気づきを情報ノートにより共有しケアに繋げている。例として入居者の発せられる言葉の中にある意見等を全員で改善策を検討している。 家族は遠慮もあるという事を踏まえ、はがきによる情報発信し、ケアマネジャーが家庭に訪問する等本音を引き出す努力をしている。ホーム内外の相談窓口を明示し、説明している。	家族へのはがきが情報発信源として生かされ、家族と相談しドライブ等が実現する等入居者の意見は随所に反映させている。家族等が意見を出す機会(家族会等)やホームの前向きな姿勢として意見箱の設置を検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の研修会(月一回)の他、随時話し合う機会を設けている。	研修会や職員の顔色や様子等を察しながら随時話し合う機会を作る等職員の悩み等を常に把握し、相談に応じ、働きやすい職場環境に努めている。個々の意見はケアマネジャーから施設長へ具申し、施設長による個別面談等職員が意見等を出す機会が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行なっている。 労働環境も、本人の意向を踏まえ資質を活かせるよう検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行い、外部の研修にも職員各自の習熟度に応じて参加し、研修報告の場も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域での連絡会があり、交流会・スタッフ研修を実施して質の向上を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、必ず本人と面談し、心身の状態を確認の上本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れてもらえるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めていることを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に対応すべき相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他事業所のサービスにつなげる等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側、という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るよう、場面作りや声掛けをしている。 利用者から「お互い様」という言葉がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族の思いにも寄り添いながら、日々の暮らしの情報共有に努め、利用者を一緒に支えるために支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者各人の行きつけの商店や美容院に出かけ、知人との会話が出来よう、出かけて行く機会を作っている。 希望する方が少なくなった。	近所のお寺からの訪問や、地元での買い物や故郷訪問としてのドライブ、希望により行きつけの美容院の利用、正月の帰省等これまでの馴染みの関係が途切れないよう家族の協力も得ながら支援している。また、海を眺めたり、中庭のお墓参り等ができる環境にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について、職員相互で情報を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、ご家族からの相談に乗っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、把握に努めており、希望・意向があった場合にはすぐに記録するようにしている。	入居者個々の特性や生活歴等を把握し、その人らしい生活を支援するため、日々のコミュニケーションや意思を尊重し、傾聴や寄り添いのケアに取り組んでいる。難聴の方には筆談での聞き取り等「らしさ」を視点に、職員の観察力を発揮したケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時から、本人・ご家族から聞き取りを行っている。また本人から聞いた情報をすぐ記録するノートを作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、出来ないことより出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日々の関わりの中で意見・要望を聞き、介護計画に反映される様にしている。 アセスメントを含め、職員全体で意見交換を行っている。	家族と相談しながら半年毎に見直すプランは（家族の意向確認に家庭を訪問することもある）、残存能力の維持や本人のこだわり等「らしさ」が見える具体的・個別的なプランである。	職員は日々気づきあるケアの実践に努力されていることが情報ノートにより表れており、今後のプランニングに生かされることを大いに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各人の日々の暮らしの様子や、本人の言葉を記録しており、職員は勤務前にそれを確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、区長、消防団指導隊長と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関と連携を保っている。 ご家族と連携し通院介助を行ったり、往診をお願いするケースもある。	入居時にかかりつけ医があれば継続してして対応することとしているが、現在、本人・家族の了承のもと地域の協力医療機関での受診をホームや家族の送迎などにより支援している。日常の健康管理は看護職員を中心に行われ、異常の早期発見に努め、家族との連携を図りながら適切な支援ができるようにしている。歯科については必要に応じて訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に状態変化に対応した支援を行えるようにしている。 看護職員不在時でも、電話連絡での指示を受けて対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する支援情報を医療機関に提供し、3日に一度は職員が見舞うようにしている。 またご家族とも、本人の回復状況等を情報共有して速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに対する方針を定め、入居時にも意思確認を行っている。	入居時に看取り指針をもとに、ホームにできる支援やグループホームとしての生活が楽しめる状態になったら、特養への転院を含め、今後の事を検討して欲しいことを伝えている。看取り介護の同意書については、入居時に確認しているが、変更はいつでも可能であることを申し添えている。現在は重度化した場合、医療機関への入院としている。看取り支援の研修は、法人やホーム内で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを掲示し、常にイメージできるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火器の使い方等、定期的に行っている。	避難訓練は法人全体で実施しており、グループホームを火元とした想定でも行っている。運営推進会議の中での訓練や自然災害(土石流)を含めた訓練など職員は意識をもって参加している。また、家族へも訓練の参加を呼びかけ意見を受けている。備蓄はリストを作成し、3日分を法人で管理し、職員へも周知を図っている。	訓練に地域消防署や消防団の参加協力が得られていることや、元消防関係者が運営推進会議のメンバーであることは有事の際には心強いと思われる。昨今の自然災害のもたらず被害は想定を超えており、今後も机上を含めあらゆる災害に備えた訓練に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助・介助時にも、まず本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けたり、自己決定がしやすい言葉の掛け方をしよう努めている。	朝食は起床時間や体調なども考慮し、希望に応じた時間での提供や、呼称は名字や下の名、愛称など家族と相談する等本人の気持ちを大切にしている。身だしなみやおしゃれもその人らしさが保たれるようにサポートしており、爪切りは4のつく日に行っているが、無理強いせずまずは本人の希望を確認している。	カーテン扉(下の部分が少し開いた)のトイレについては、他の利用者も目に入ることから改善の余地があると思われる。全員で検討されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状況に合わせ、本人が答え易く選び易くなるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しつつ、その日その時の本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを保てるような手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、残念ながら、利用者自身による準備、片付けはほとんど出来ない。	ホーム内での調理に変更し、入居者の楽しみとなる食事を支援している。献立は法人のものを参考にしながら、入居者の希望などを反映し職員が立てており、食材は地域商店からの配達と魚は鮮魚店を利用している。アロハシャツを着て南国の雰囲気を楽しみながらの「アロハ海鮮会」や「鍋会」など工夫された食事が支援されていることが聞き取りや写真から確認された。入居者が台所に立つ機会は殆どないが、献立への提案、ツワの皮むき、台拭きなどできることで食へかかわる機会を作っている。	職員は「海鮮会」などのイベント食で同じものを摂っており、入居者も嬉しい時間になっていると思われる。今後も入居者の楽しみとなる食事支援に取り組まれることを期待したい。また、食事支援時の見守りについては、管理者は着席してケアするよう指導されており、職員への周知に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は利用者各人に合わせ、その場で確認するようにもしている。本人の好物や、食べやすいものも検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者には、1日数回のうがいをお願いし、協力してもらっている。夕食後に歯磨き等、本人の能力に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ使用の自立性を大切にしながら、紙パンツ、オムツパッド類も本人の状態に合わせて検討している。	個々の状況に応じて声掛けや誘導、自立の方の継続を支援している。殆どの方がリハビリパンツを使用されているが、おむつを1日通してや夜間のみ使用される方、布パンツで過ごされる方も2名おられる。また、ポータブルトイレも夜間のみなど個々に応じて支援している。ポータブルトイレは毎日のバケツの洗浄と月1回徹底した掃除により清潔に管理している。職員は入居者と同じトイレを使用することで臭気や使いやすさなど確認し、改善につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状況等を見直し、自然排便を促す工夫を個別にしている。 また、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望時に入浴していただき、入浴を拒まれる方には言葉の掛け方、チームプレイ等対応を工夫して気分良く入浴できるよう配慮している。	入浴は個々の希望や体調を確認し、週2回午後を中心に支援しており、午前の希望や汚染時にはその都度応じ、清潔保持に努めている。1年前入居者の身体機能や職員の腰痛軽減への配慮から、個浴型介護浴槽が導入されたことで、入居者には好評のようである。シャンプーなどホームで備えているが、好みのある方は個人で準備されており、脱衣所に内容を掲示し、職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬の内容を把握できるよう、服薬情報をファイルしている。 また法人全体での薬に関するテストも時々ある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かせるよう、お願いできそうな仕事を頼み、職員から感謝の言葉を伝えて本人のやる気に結びつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近辺の散歩だけでなく、個々の馴染みの店や知っている場所へ出かけている。	日常的には中庭に出たり眼下の海を眺め、暑さや寒さ、感染症の時期などは外出を控えている。入居者の職員と1対1で外出したいとの要望から、故郷訪問と季節の衣類購入を計画するなど、個別に出かけている。また、入居者の思いや希望を観察し、可能な限り希望を支援している。家族の協力としては、正月の外泊で孫やひ孫さんと楽しい時間を過ごされた方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所が金銭管理することになっている利用者でも、外出時に現金を手渡し、自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族には毎月現況報告を行なっている。また、手紙や絵葉書等、利用者本人にお願いし、自筆で出したりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員間の情報交換の際でも、大声でのやりとりをさけるようにしている。また季節感を感じていただくため、入浴では柚子湯・菖蒲湯等、献立では鍋物や山菜御膳等を行っている。	ホーム内は季節や入居者の状況に応じて室温管理を行い、職員の声も大きさやトーンに配慮している。リビング食堂は集いの場であり、席の配置も介護の度合いや相性なども考慮して決定している。昼食後は居室に帰り休息する方や、定位置でテレビを見る入居者など思い思いの時間を過ごされている。また、花が生けられた花器をテーブルに移動し、花の種類を語り合う入居者と職員の光景も見られた。	廊下は歩行訓練の場ともなっており、壁には外出やイベント時の写真が掲示されている。今後も掲示方法の工夫や季節感を取り入れながら、入居者や来訪者にも楽しみとなる共用空間を継続していきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者と全く離れて居たいののではないが、少し距離をおいて過ごしたい、という要望にも工夫して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の好みや馴染みのある物等、生活スタイルに合わせて用意している。	玄関から入り左右に配置された居室は明るく、扉には、〇〇様の部屋と案内されている。入居時に家庭にある馴染みの品の持ち込みを説明しており、テレビや整理タンス、目覚まし時計、お気に入りの帽子など家族によって準備されている。安全面からベッドの柵にクッション材を巻いたり、向きや配置など個々に応じて検討している。また、就寝時だけでなく、自分の部屋としていつでも居心地よく過ごせるよう、掃除や換気に努めている。	「タンスの小まかけん服のいらん！もうちょっとふとかつば持ってきてもらわんば！」と発せられたことから、一回り大きなタンスを持ち込まれ家族もおられたようである。今後も職員の気づきや入居者の一言を大切にしながら、家族と一緒に居心地の良い居室作りに努めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にとって、わかりやすい表示や方法を考え、出来るだけ利用者本人の力が活かせる工夫を迫している。 本人の能力でやれることを増やせるよう、環境整備に努めている。		